

6/23 朝日

祖母の沖縄戦 ウクライナ重ね

平和のハーフ

主婦

(東京都 74)

本戻に追いつかれたことでもあった。

祖母は77年前の沖縄の地上戦を経験した。1945年4月1日、祖母らが住んでいた本島中西部に米軍が上陸を開始した。艦隊が海を黒々と埋め尽くすのを見たという。10人の家族は、血を絶やすまいと、祖父と祖母に分かれて避難を始めた。

歩くことが不自由な曾祖母を連れていた祖父らは遠くに逃げることができず、すぐ米軍に捕らえられた。5人の子を連れた祖母は艦砲射撃に追われ、激戦地となつた南へ。艦砲の破片で負傷した次男を抱きながらあいのガマや墓に隠れたが、日

砲のやんた夜、持っていた最後の米で握り飯を作つて食べさせた後に別れだが、それが最後になつた。

逃げるところ3ヵ月、祖母らも米軍の収容所に。そこでは、多くの収容者を見た女性が「どうして自分の子を殺めたのだろう。」うして皆、生きられたのに」と泣き声が聞こえたという。祖母もまた、92歳で亡くなるまで長男の命を惜しみ、苦惱を続けた。毎日のように流れるウクライナの映像に、祖母の沖縄戦を重ね合わせる日々が続いている。